

令和7年度 第2回一関市スポーツ推進審議会

日時：令和7年9月22日（月） 14：00～15：30

場所：一関保健センター栄養指導室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

(1) 地域スポーツ関係者とのワークショップ・スポーツ関係団体との懇談会
の概要報告について（資料1・2）

(2) 第2期一関市スポーツ推進計画の基本目標（案）及び基本施策（案）について
（当日資料1・2）

4 その他

5 閉 会

スポーツ推進審議会委員名簿(R08.1.29まで)

No.	役職名	氏名
1	委員	伊藤 成子
2	委員	及川 加奈子
3	委員	及川 圭二
4	委員	小野寺 勝
5	委員	小幡 和夫
6	委員	佐藤 義行
7	委員	亀谷 キイ子
8	委員	菊池 正人
9	委員	佐々木 賢治
10	委員	橋本 ゆかり
11	副会長	須藤 光子
12	委員	清田 博美
13	会長	平野 和彦
14	委員	藤原 洋
15	委員	佐々木 貴浩
16	委員	阿部 富美雄
17	委員	千葉 京子
18	委員	千葉 美幸
19	委員	沼倉 恵子
20	委員	渡邊 和貴

これからの一関市のスポーツを考えるワークショップの概要報告

日 時	対象地区	会 場	対 象 者	参加者数
6月25日(水) 19:00～21:00	大東・東山地域	摺沢市民センター	各地区体育協会 スポーツ少年団 小・中学校PTA 地域協働体 の関係者	17名
6月27日(金) 19:00～21:00	一関地域(真滝・弥栄地区)、花泉地域	花夢パル		20名
11月10日(火) 18:30～20:15	千厩、室根、川崎、藤沢地域	千厩市民センター		24名
11月13日(金) 18:30～20:15	一関地域(一関・山目・中里・巖美・萩荘・舞川地区)	一関ヒロセユードーム		25名

- ① 懇談テーマ：(1)生涯を通じてのスポーツ活動をどうしていくか
(2)スポーツ団体の育成・支援
(3)スポーツ施設

② 出された意見等

<p>(1) 生涯を通じてのスポーツ活動をどうしていくか</p> <p>○幼少期からのスポーツ体験の機会に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から学童期の経験が、生涯スポーツにつながる。 ・子どもが安心して取組み、親も一緒に体験できる機会の充実が必要である。 ・いろいろなスポーツの体験会などのイベントであれば、参加しやすい。 ・子どもがスポーツに取り組むには、保護者の協力が必要である。 ・子ども達は放課後に学校で遊ばず、身体を動かす機会も減っている。 ・スポーツのきっかけは、親の影響が強く、きっかけとなる機会の提供が必要である。 ・スポーツ以外の習い事をしている子どもも多い。 ・未経験者がはじめるきっかけとなる場がない。 <p>○生産年齢層のスポーツに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがきっかけで、保護者が始める場合もある。 ・スポーツ教室と就労時間が重なり参加できない。 ・仕事や子育てでスポーツ活動をする時間がない。 <p>○高齢者のスポーツに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャ、モルックが人気でニュースポーツが好まれている。 ・スポーツ活動を集まれる場として活用する。 ・類似事業があるので、福祉分野とも連携し世話人の負担感を減らす。 <p>○地域のスポーツに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の確保が難しい。 ・競技志向の受け皿はあるが、体験や遊び型の受け皿がない ・コロナ前より運動会など参加人数が減った。 ・地域ごとにスポーツを限定してはどうか。

- ・合併による広域化で自治会や行政区での事業は難しくなっている。
- ・地域内のコミュニケーションが低下しており、若者の参加も少ない。

○その他

- ・スポーツに関して、気軽に相談できる窓口が欲しい。
- ・スポーツ行事に参加でポイントがたまる仕組みを考えてはどうか。

(2) スポーツ団体の育成・支援

○地区体協に関すること

- ・高齢化により事業の開催が難しい。
- ・広域化したクラブチームの支援がないので、支援できる仕組みを考えたい。

○競技団体に関すること

- ・親がチームに協力できない、子どもを送迎できないことで参加できない子どもがいる。
- ・子どものモチベーションを上げるためにも、目標となる大会を開催してほしい。
- ・行うスポーツを選びやすくするため、情報発信を一元化してほしい。

○学校部活動の地域展開に関すること

- ・地方には受皿となるチームがない。
- ・地域クラブ活動になることで、様々な世代が関わるきっかけにできるのではないかな。

○指導者に関すること

- ・資格の維持、取得に負担が大きい（時間・交通費）

(3) スポーツ施設

○公共施設予約システムに関すること

- ・当日キャンセルも多く使いたい人が使えない。
- ・地元の団体を優先してほしい。
- ・団体で複数の個人アカウントを登録しているところもあり、不公平ではないかな。
- ・使いづらい、わかりやすいものにしてほしい。

○使用料に関すること

- ・市民は市外からの利用者に比べ、安くしてもよいのではないかな。
- ・時間帯で料金を変えてはどうか。
- ・料金の計算に面積が入るので、施設によって料金が違うので統一できないかな。

○施設に関すること

- ・施設により判断基準の違いやローカルルールがあるので、統一してもらいたい。
- ・暑さ対策が必要である。
- ・施設情報の周知→施設でできる競技や使える学校体育館など。
- ・施設で開催される大会などのスケジュールを開示してほしい。
- ・老朽化したので廃止だけでは、気軽にスポーツをできる場所がなくなっていく。
- ・敷地内禁煙となっているが、かくれて煙草を吸いポイ捨てが増えているので、分煙場所を設けたほうがよいのでは。

一関市スポーツ協会及び種目別競技団体との懇談会の概要報告

資料 2

1. 開催日時と参加団体数

日時	会場	対象	参加団体数
8月28日(木) 19:00~20:30	一関市産業教養 文化体育施設	屋外競技 19団体	10団体
9月3日(水) 19:00~20:30	一関市産業教養 文化体育施設	屋内競技 19団体	9団体

2. 案内先

NO	団体名	区分	屋外競技	屋内競技	事前資料提出のみ
1	一般社団法人一関市スポーツ協会	体育協会		○	
2	一関市陸上競技協会	種目別競技協会	○		
3	一関市水泳協会	種目別競技協会	○		
4	一関市サッカー協会	種目別競技協会	○		
5	一関市テニス協会	種目別競技協会	○		
6	一関市バレーボール協会	種目別競技協会		○	
7	一関市体操協会	種目別競技協会		○	
8	一関市バスケットボール協会	種目別競技協会			
9	一関市ソフトテニス協会	種目別競技協会	○		
10	一関市卓球協会	種目別競技協会			○
11	一関市野球協会	種目別競技協会			
12	一関柔道協会	種目別競技協会			
13	一関市ソフトボール協会	種目別競技協会			
14	一関市バドミントン協会	種目別競技協会			
15	一関市弓道協会	種目別競技協会		○	
16	一関クレー射撃協会	種目別競技協会		○	
17	一関市剣道協会	種目別競技協会		○	
18	一関ラグビーフットボール協会	種目別競技協会	○		
19	一関市フェンシング協会	種目別競技協会			○
20	一関市空手道連盟	種目別競技協会			
21	一関市ボウリング協会	種目別競技協会			
22	一関市ゲートボール協会	種目別競技協会			
23	一関市ゴルフ協会	種目別競技協会			
24	一関市スキー協会	種目別競技協会			
25	一関市グラウンドゴルフ協会	種目別競技協会			
26	一関市少林寺拳法協会	種目別競技協会		○	
27	一関市朝野球協会	種目別競技協会			
28	一関市バウンドテニス協会	種目別競技協会		○	
29	一関市パークゴルフ協会	種目別競技協会			
30	一関市ペタンク協会	種目別競技協会			
31	いちのせき歩こう会	種目別競技協会	○		
32	一関市スポーツウェルネス吹矢協会	種目別競技協会			○
33	一関市インディアカ協会	種目別競技協会			
34	一関市パラスポーツ協会	種目別競技協会			○
35	NPO法人グッジョブクラブ	総合型スポーツクラブ		○	
36	一関地方小学校体育連盟	学校関係者	○		
37	一関地方中学校体育連盟	学校関係者	○		
38	岩手県高等学校体育連盟県南支部	学校関係者	○		
合計			10	9	4

意見の多かったもの	現状と課題
競技人口の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少によりスポーツをする人が減っている。 ・スポーツの多様化により、競技人口の確保が大きな課題である。 ・社会情勢の変化により企業等がスポーツを重要視しなくなった。 ・中学校部活動の任意加入により、スポーツに取り組む生徒が減少している。
組織の弱体化	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化が進んでいる。 ・新規加入者が減少している。 ・活動会員が固定化している。 ・会員数が減って、財政難である。 ・余裕がなく人材育成ができていない。 ・働き方改革・定年延長で協会活動をする人が確保できず、次世代への引継ぎが難しい。
指導者の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行では、保護者へ委ねられることが多く、負担が大きいと感じる。 ・資格取得にあたっての経済的・時間的負担が大きい。 ・多くが無償ボランティアでの指導となっているため、今後の確保は困難である。
活動場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用予約が過密となっている。 ・無断キャンセルが多い。 ・気軽に誰もがスポーツを楽しめる環境が少ない。 ・学校統合により学校開放で使用できる施設が減っている。
気候変動	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは暑さ対策が必要である。 ・スポーツ施設には、冷暖房設備の整備が必要である。

意見の多かったもの	これからの一関市のスポーツ推進に求めること
財政的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を主体とするクラブ活動に移行が進んでいるが、それらのクラブにも財政的支援がほしい。 ・会員等の人数減少により、補助金額が年々減少しているが、物価高騰により経費は増加しているので、補助金の算定方法を見直し、補助金を増額してほしい。 ・現在支援がある大会開催や全国大会出場への補助金を継続してほしい。
指導者確保	<ul style="list-style-type: none"> ・行政主導による指導者確保の施策を進めてほしい。 ・無償ボランティアでは、指導者が増えないので、指導者確保の支援策を検討してほしい。
活動場所	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が利用しやすい場所へ施設を整備してほしい。 ・活動場所へ移動するための支援がほしい。 ・生涯スポーツ推進のために、地域で活動できる施設整備をしてほしい。 ・公共施設を利用しやすいように、柔軟な利用調整、開放時間を拡充してほしい。 ・老若男女、スポーツに触れ合える機会を多く作ってほしい。 ・地域住民の健康づくりと交流の場となる機会を作ってほしい。
競技力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・市、スポーツ協会、種目別競技協会が連携して取り組む必要がある。 ・トップアスリートによる講演や実技指導の実施してほしい。 ・全国をこれから目指すアスリートに対する支援も拡充してほしい。
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設に冷暖房設備を整備してほしい。 ・利用料金を値上げし、その収益でスポーツ施設を充実させてほしい。 ・スポーツ施設の利用について、地域のチーム等の優先利用、利用料免除することで支援してほしい。

第 2 章 一関市の将来像

ひとりひとりが輝く 挑戦しつづけるまち いちのせき

まちの主演は市民一人ひとりです。

年齢も住んでいる地域も考え方も好きなものも異なる一人ひとりが、人生の、生活のあらゆる場面で、自らが望むように生き、生活を営むことで、一人ひとりの笑顔が輝きます。

一人ひとりの、人生の、毎日の、大きさも種類も異なるさまざまな挑戦を、周囲の誰もが受け入れ、互いに認め合うことで、笑顔が広がり、まちが輝きます。

一関市には、豊かで広大な自然、人と自然の中で培われ伝えられてきた歴史や文化、豊かなコミュニティがあり、これまで私たちは、これらを一関市の魅力として見つけ、育て、輝かせてきました。これらの魅力に加え、今後の人口減少社会においては一人ひとりに今まで以上にスポットライトが当たり、私たち一人ひとりの存在も一関市の魅力となっていきます。このさまざまな魅力を持つ一関市を次の世代につなげていくため、私たちには未来に向かって挑戦し続けることが求められます。

好きなひとやもののために、そして自分のために、挑戦するひとがいるまちでは、輝く笑顔と幸せが広がります。

私たち一人ひとりのさまざまな挑戦を認め合い、暮らしやすさを実感できるまちとするため、「ひとりひとりが輝く 挑戦しつづけるまち いちのせき」を私たちのまちの将来像に掲げます。

第3章 将来像を実現するための基本目標

第1節 基本目標

将来像を実現するために、私たちの暮らしの視点から「ひと」「まち」「しごと」に整理した3つの基本目標を掲げ、まちづくりを進めます。

○ いちのせきで「いきる」 ひかり輝く「ひとづくり」

「いきる」*ことは一人ひとり異なり、なりたい自分も一人ひとり異なります。

まちは「ひと」の集合体であり、まちづくりの土台は「ひとづくり」です。

一人ひとりがなりたい自分を見つけ、笑顔で幸せを感じられる人生とできるよう、そして、誰もがその人の人生を認め、受け入れ、応援することができるよう、誰もがいきる幸せを感じられる、ひかり輝く「ひとづくり」を目指します。

○ いちのせきで「くらす」・「つどう」 暮らしやすさを感じる「まちづくり」

ひとが暮らす場が「まち」であり、ひとが集い「まち」になります。

「まち」には、ひととひと、もの、世界、過去、そして未来とのつながりが生まれ、「まち」に暮らすひとが輝くことで、「まち」全体が輝き、賑わいます。

ひとがのびのびと暮らせる場としての「まち」と、ひとが様々なかたちで集うことで生まれる「まち」を、整え、培うことで、誰もが暮らしやすさを感じる「まちづくり」を目指します。

○ いちのせきで「はたらく」 やりたいことが実現できる「しごとづくり」

ひとがまちで生き、暮らすことで、「しごと」が生まれます。

生きるための営みも誰かのための労働も、「はたらく」ことであり、「しごと」は生活を支えるだけでなく、時にいきることを支えることもあります。

暮らしやすいまちには、ひとが集まり、さまざまな魅力をもつ「しごと」が生まれます。誰もが自分の生活や生き方に合う「しごと」を選べるよう、やりたいことが実現できる「しごとづくり」を目指します。

※ 生存を意味する「生きる」とは区別し、一人ひとりがなりたい自分を見つけ輝いている様子の表現として使用

第3期スポーツ基本計画（概要）

[第2期計画期間中の総括]

- ① **新型コロナウイルス感染症：**
 - ▶ 感染拡大により、スポーツ活動が制限
- ② **東京オリンピック・パラリンピック競技大会：**
 - ▶ 1年延期後、原則無観客の中で開催
- ③ **その他社会状況の変化：**
 - ▶ 人口減少・高齢化の進行
 - ▶ 地域間格差の広がり
 - ▶ DXなど急速な技術革新
 - ▶ ライフスタイルの変化
 - ▶ 持続可能な社会や共生社会への移行

こうした出来事等を通じて、改めて確認された

- ・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『**スポーツそのものが有する価値**』（Well-being）
- ・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など『**スポーツが社会活性化等に寄与する価値**』

を更に高めるべく、第3期計画では次に掲げる施策を展開

1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策



持続可能な国際競技力の向上

- 東京大会の成果を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、
 - ・ NFの強化戦略プランの実効化を支援
 - ・ アスリート育成パスウェイを構築
 - ・ スポーツ医・科学、情報等による支援を充実
 - ・ 地域の競技力向上を支える体制を構築



共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進

- 東京大会による共生社会への理解・関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画を促進
- オリパラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進



スポーツを通じた国際交流・協力

- 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、更なる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献（ドーピング防止活動に係る人材・ネットワークの活用等）



大規模大会の運営ノウハウの継承

- 新型コロナウイルス感染症の影響下という困難な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用



地方創生・まちづくり

- 東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生・まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着
- 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと調和した取組を推進



スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

- 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全・安心を脅かす事態に対応するため、
 - ・ 誹謗中傷や性的ハラスメントの防止
 - ・ 熱中症対策の徹底など安全・安心の確保
 - ・ 暴力根絶に向けた相談窓口の一層の周知・活用

2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策

スポーツを「つくる / はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。

- ◆ 柔軟・適切な手法や仕組みの導入等を通じた、多様な主体が参加できるスポーツの機会創出
- ◆ スポーツに取り組む者の自主性・自律性を促す指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成
- ◆ デジタル技術を活用した新たなスポーツ機会や、新たなビジネスモデルの創出などDXを推進

スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。

- ◆ 施設・設備整備、プログラム提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現
- ◆ スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力による我が国のスポーツ体制の強化
- ◆ スポーツ分野の国際協力や魅力の発信

スポーツに「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。

- ◆ 住民誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供
- ◆ 居住地域にかかわらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学等の支援を受けられるよう地域機関の連携強化
- ◆ 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがない継続的なアクセスの確保

3. 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策

① 多様な主体におけるスポーツの機会創出

地域や学校における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力向上、体育の授業の充実、運動部活動改革の推進、女性・障害者・働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上 等

④ スポーツの国際交流・協力

国際スポーツ界への意思決定への参画支援、スポーツ産業の国際展開を促進するプラットフォームの検討 等

⑦ スポーツによる地方創生、まちづくり

武道やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進など、スポーツによる地方創生、まちづくりの創出の全国での加速化 等

⑩ スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材

民間・大学も含めた地域スポーツ施設の有効活用の促進、地域スポーツコミッションなど地域連携組織の活用、全N Fでの人材育成及び活用に関する計画策定を促進、女性のスポーツ指導に精通した指導者養成支援 等

② スポーツ界におけるDXの推進

先進技術を活用したスポーツ実施のあり方の拡大、デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出 等

⑤ スポーツによる健康増進

健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進、医療・介護や企業・保険者との連携強化 等

⑧ スポーツを通じた共生社会の実現

障害者や女性のスポーツの実施環境の整備、国内外のスポーツ団体の女性役員候補者の登用・育成の支援、意識啓発・情報発信 等

⑪ スポーツを実施する者の安全・安心の確保

暴力や不適切な指導等の根絶に向けた指導者養成・研修の実施、スポーツ安全に係る情報発信・安全対策の促進 等

③ 国際競技力の向上

中長期の強化戦略に基づく競技力向上支援システムの確立、地域における競技力向上を支える体制の構築、国・JSP O・地方公共団体が一体となった国民体育大会の開催 等

⑥ スポーツの成長産業化

スタジアム・アリーナ整備の着実な推進、他産業とのオープンイノベーションによる新ビジネスモデルの創出支援 等

⑨ スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化

ガバナンス・コンプライアンスに関する研修等の実施、スポーツ団体の戦略的経営を行う人材の雇用創出を支援 等

⑫ スポーツ・インテグリティの確保

スポーツ団体へのガバナンスコードの普及促進、スポーツ仲裁・調停制度の理解増進等の推進、教育研修や研究活動等を通じたドーピング防止活動の展開 等



『感動していただけるスポーツ界』の実現に向けた目標設定

全ての人々が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会を目指す

💡 国民のスポーツ実施率を向上

- ✓ 成人の週1回以上のスポーツ実施率を70%（障害者は40%）
- ✓ 1年に一度以上スポーツを実施する成人の割合を100%に近づける（障害者は70%を目指す）

💡 生涯にわたって運動・スポーツを継続したい子供の増加

（児童86%⇒90%、生徒82%⇒90%）

💡 子供の体力の向上

（新体力テストの総合評価C以上の児童68%⇒80%、生徒75%⇒85%）

💡 誰もがスポーツに参画でき、共に活動できる社会を実現

- ✓ 体育授業への参加を希望する障害のある児童生徒の見学ゼロを目指した学習プログラム開発
- ✓ スポーツ団体の女性理事の割合を40%

💡 オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会で、過去最高水準の金メダル数、総メダル数、入賞者数、メダル獲得競技数等の実現

💡 スポーツを通じて活力ある社会を実現

- ✓ スポーツ市場規模15兆円の達成（2025年まで）
- ✓ スポーツ・健康まちづくりに取り組む地方公共団体の割合15.6%⇒40%

💡 スポーツを通じて世界とつながる

- ✓ ポストSFT事業を通じて世界中の国々の700万人の人々への裨益を目標に事業を推進
- ✓ 国際競技連盟（IF）等役員数37人規模の維持・拡大

「第2期岩手県スポーツ推進計画（2024～2028）」の概要

資料5

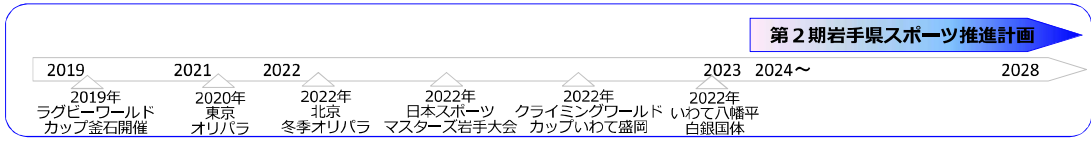
- 第1章
- 1 策定の趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の期間
- 第2章
- 1 目指す姿
- 第3章
- 4 つの施策の主な取組内容

- (1) 国において、2022年3月に第3期スポーツ基本計画を策定
 (2) 2019年RWC釜石開催、2022年日本スポーツマスターズ等の大規模大会開催のレガシーの継承
 (3) 本県出身のスポーツ選手の海外での活躍による、県民のスポーツ機運の高まり

スポーツの推進により、県民の幸福で豊かな暮らしが実現するよう、県民をはじめ市町村やスポーツ関係団体等と連携・協働し、県が総合的かつ計画的に取り組む施策を示すもの

- (1) 「いわて県民計画（2019～2028）」第2期アクションプランに示している目標や取組等を具体化する個別計画
 (2) スポーツ基本法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」

2024年度から2028年度(5年間)



スポーツの推進による県民誰もが健やかで輝く岩手の創造

【多様な主体との連携】市町村やスポーツ関係団体など、多様な主体と連携し、幅広い分野に関わるスポーツ施策の展開やDXの活用など新たな取組を推進



1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進

(1) スポーツ参画人口の拡大

- ① スポーツを楽しむ機会の充実
- ② 総合型地域スポーツクラブの充実
- 新・指導者の確保や資質向上等に向けた取組の支援
- ③ スポーツを通じた健康増進
- 新・スポーツデータを活用した健康づくりの拠点づくりに向けた取組の推進
- 新・「レッツ！ベッコトレ」等による健康づくり等

(2) 子どものスポーツ機会の充実

- ① 学校体育の充実
- ② 運動部活動の充実
- 新・休日における地域の環境整備の推進
- ③ 地域における子どものスポーツ機会の充実
- 新・地域クラブ活動への移行に向けた取組の推進

(3) 成人のスポーツ機会の充実

- ① 働く世代のスポーツ参画人口の拡大
- ② 高齢者のスポーツ参画機会の充実

(4) スポーツに関わる多様な人材の確保・育成

- ① 地域スポーツを支える人材の育成
- ② スポーツボランティアの養成の促進
- ③ スポーツ団体の組織・連携体制の強化
- 拡・「いわてスポーツプラットフォーム」の意見を踏まえたスポーツ振興の推進
- ④ スポーツ功労者の表彰の実施

(5) スポーツを楽しむ環境の整備

- ① 県有スポーツ施設のストックの適正化
- 新・あり方検討を踏まえ次期個別施設計画の策定
- ② 地域スポーツ資源の有効活用・利用促進
- 新・県営スポーツ施設等の予約システムの利用促進

2 共生社会型スポーツの推進

(1) 障がい者スポーツ等の推進

- ① 障がい者のスポーツやその他のスポーツの参画機会の充実
- ・県障がい者スポーツ大会、各種スポーツ教室等への開催や全国障害者スポーツ大会への選手派遣
- ・教員の資質向上、体育の授業改善等による、児童生徒の運動習慣の定着化
- 新・インクルーシブスポーツへの関心の高まりを契機とした取組の推進
- ② 障がい者がスポーツを楽しむ環境の整備
- ・公認パラスポーツ指導員の養成研修の実施
- 拡・スポーツ施設のバリアフリー化等障がい者が利用しやすい環境の整備の促進

(2) 高齢者スポーツの推進（再掲）

- ① 高齢者のスポーツ参画機会の充実
- ・ねんりんピックへの選手団派遣及びいわてねんりんピックの開催支援
- ② スポーツを通じた健康増進
- 新・スポーツ医・科学の知見を生かした健康づくりの拠点づくりに向けた取組

(3) スポーツにおける女性の活躍推進

- ① 女性のスポーツ参画機会の充実
- ・市町村や総合型クラブ等のスポーツ教室やプログラムの多様化の促進
- ② 女性がスポーツを楽しむ環境の整備
- ・アスレティックトレーナー、いわてアスレティックトレーナーの活用

3 国際的に活躍する競技スポーツの推進

(1) アスリートの発掘・育成

- ① 次世代アスリートの発掘・育成
- 拡・「いわてスーパーキッズ」におけるタブレット端末等を活用したアスリート育成の推進
- 拡・中長期的な視点に立ったジュニア期からの競技力向上の推進
- ② 国内外で活躍するアスリートの育成
- ③ アスリートが競技生活を継続できる環境の整備
- 拡・「岩手スポーツアスリート無料職業紹介所」によるアスリートの県内就職の推進
- ④ スポーツ優秀選手の表彰

(2) 競技力向上を支える人材の育成

- ① 指導者の資質向上
- ・全国で活躍する指導者との連携
- 新・映像データ分析等デジタル技術を活用した競技力向上の推進
- ② アスリートのサポート人材の育成

(3) 競技力向上を支える環境の整備

- ① スポーツ医・科学、情報等を活用した支援
- 新・スポーツデータを活用し、効果的なトレーニングに結び付けるための拠点づくりに向けた取組の推進
- ・アスレティックトレーナー、いわてアスレティックトレーナーの活用
- ② 競技団体の組織強化
- 新・スポーツ団体等の女性役員の登用等、女性がスポーツをしやすい組織づくりに向けた取組の推進

4 地域を活性化させるスポーツの推進

(1) 地域の活力につながるスポーツの推進

- ① スポーツコミッションやトップ・プロスポーツチームと連携した地域活性化の推進
- ・大会・合宿等の誘致
- ・トップ・プロスポーツチームによるスポーツ教室の開催等
- ・スポーツアクティビティの普及
- ② 大規模スポーツ大会を契機とした人的交流の推進
- ・「釜石鶴住居復興スタジアム」の利活用等による地域活性化
- 新・「ラグビー県いわて」の情報発信
- 新・東京2020大会を契機とした、被災地でのスポーツ交流による本県の魅力発信と震災伝承の取組推進

(2) 経済の活性化につながるスポーツの推進

- ① 大規模スポーツイベント等と連携した市場開拓等への支援
- ・大規模スポーツイベント等の機会を活用した、県産農林水産物をはじめとする県産品のPR、販路拡大等
- ② トップ・プロスポーツと連携した市場開拓等への支援
- ③ スポーツビジネスの創出・拡大
- ・各種スポーツ団体等と市町村や民間事業者等との連携による新たなスポーツビジネスの創出

新・第2期計画に新たに記載する取組
 拡・現計画に記載の取組を拡充する取組

現行のスポーツ推進計画と時期スポーツ推進計画の比較

第2期一関市スポーツ推進計画は、直近の国・県の計画を参考とし、本市の最上位計画である「一関市総合計画」と整合性を図りながら、第1期計画の施策の成果の検証結果と市のスポーツを取り巻く現状と課題を踏まえ、第1期計画の目標及び施策を継承・展開しつつ、令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの期間において本市のスポーツ施策を総合的・計画的に推進するための計画です。

現行計画（第1期計画）

次期計画（第2期計画）

【基本理念】

【基本目標】

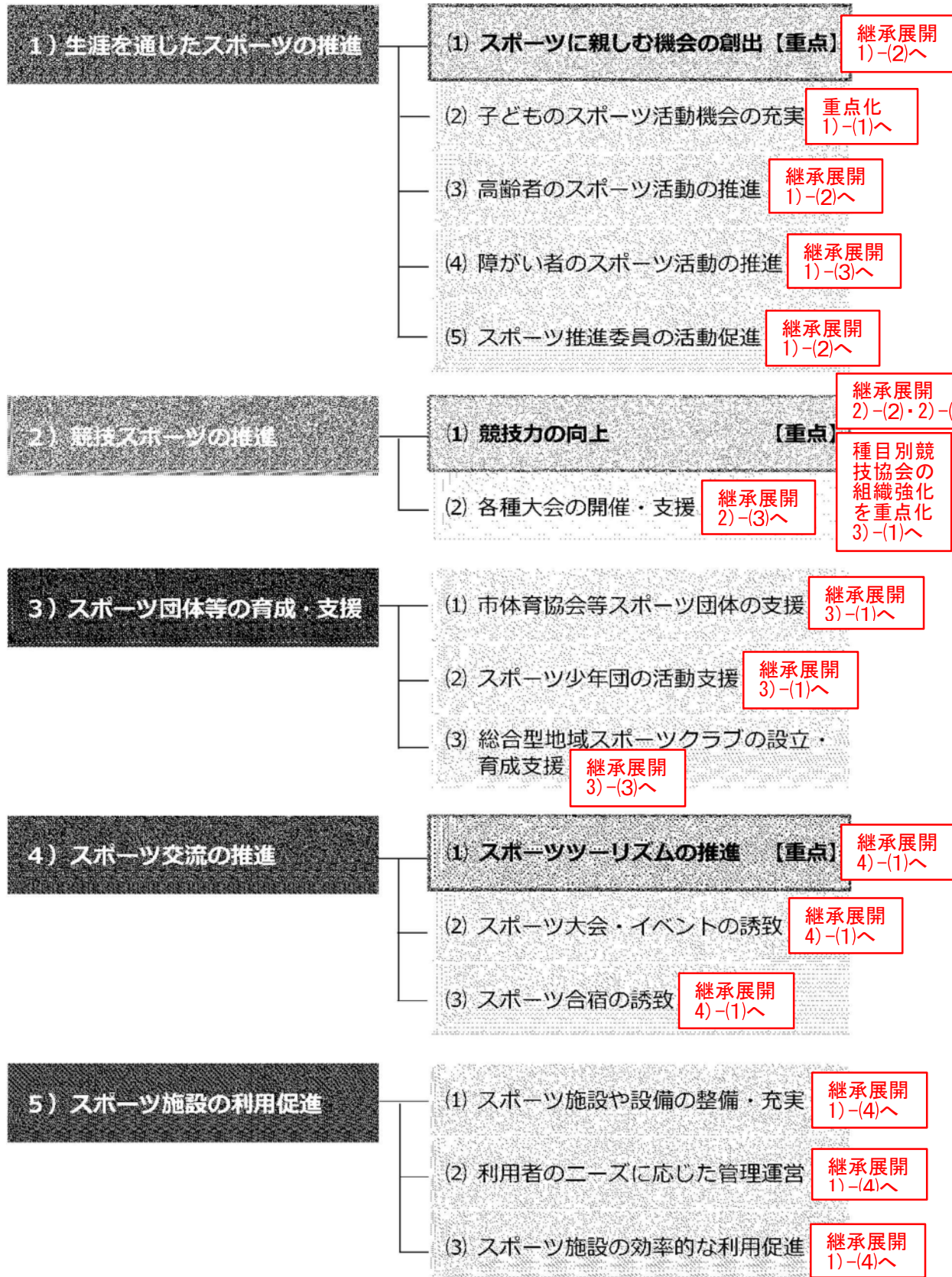
【基本施策】

【基本理念】

【基本目標】（案）

【基本施策】（案）

誰もがスポーツを楽しみ 健康でいきいきとした生活の実現



※ 第3回推進会議でお示しします

スポーツに対する関わり方で項目分け

1) 誰もがスポーツに楽しめる環境づくり
<スポーツをする・つづける>

- (1) 子どものスポーツ活動機会の充実【重点】
- (2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- (3) 多様な人が楽しめるスポーツ活動の推進
- (4) スポーツ施設の適切な管理運営及び計画的改修

2) スポーツの魅力に触れることができる環境づくり
<スポーツをみる・たのしむ>

- (1) DXを活用したスポーツの情報発信【重点】 新規項目
- (2) 競技スポーツの支援
- (3) スポーツ大会の開催支援
- (4) トップアスリートとの交流

3) スポーツ活動を支える体制づくり
<スポーツをささえる・スポーツにかかわる>

- (1) スポーツ団体等の組織強化・活動への支援【重点】 新規項目
- (2) スポーツ団体等と連携した指導者の確保・育成
- (3) 総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援
- (4) 民間企業との連携（民間活力の活用）

4) スポーツで賑わうまちづくり
<スポーツであつまる・つながる>

- (1) スポーツを通じた交流人口の拡大【重点】 新規項目
- (2) DXを活用した交流の促進
- (3) スポーツを通じた地域コミュニティの活性化 新規項目

一関市スポーツ推進計画（令和3年度～令和7年度）の取組状況と評価

[基本目標1]生涯を通じたスポーツの推進

〈基本施策1〉スポーツに親しむ機会の創出

【取組状況】

- ・スポーツ施設の指定管理者である市スポーツ協会が、指定管理業務としてスポーツ・レクリエーション普及事業や市民が気軽に楽しむことができる各種スポーツ教室を開催した。
- ・PTA活動や高齢者教室、地域行事へスポーツ推進委員を派遣した。

【評価】

- ・各種スポーツ教室を開催しているが、指標としている「市民のスポーツ実施率」は市民アンケート調査の結果では目標値に達していない。また、市民がスポーツ活動に取り組むきっかけとなる情報発信が十分ではないことから、スポーツに関する情報発信を強化するとともに引き続き市民誰もがライフステージに応じて気軽にスポーツを親しめる環境整備に取り組む必要がある。

〈基本施策2〉子どものスポーツ活動機会の充実

【取組状況】

- ・種目別競技協会と連携し、スポーツ体験教室を開催した。
- ・小学生を対象とする各種イベントを開催し、スポーツ活動機会を創出した。

【評価】

- ・子どもが様々なスポーツを体験できる機会が不足している。幼児期・学童期からスポーツに触れることが生涯にわたるスポーツ習慣につながることから、更なる取組みが必要である、

〈基本施策3〉高齢者のスポーツ活動の推進

【取組状況】

- ・令和6年度からは、全国大会等出場シニア応援金を創設し、高齢者のスポーツ活動推進に一層努めた。

【評価】

- ・シニア世代からの要望もあり、新たに創設した応援金制度は、高齢者のスポーツ活動へのモチベーションの一つとなっていることから、取組みを継続していく必要がある。

〈基本施策4〉障がい者のスポーツ活動の推進

【取組状況】

- ・市体育協会、市スポーツ推進委員協議会と連携し、障がいの有無や年齢に関わらず気軽に参加できるニュースポーツ大会を開催した。

【評価】

- ・誰でも参加できるニュースポーツ大会を開催しているものの、障がい者の参加は多くないことから、スポーツを通じた共生社会の実現のためにも、今後は市パラスポーツ協会との連携を深めた取組みを進めていく必要がある。

〈基本施策5〉スポーツ推進委員の活動促進

【取組状況】

- ・スポーツ推進委員を各種研修会へ派遣し、資質向上を図るとともに、その活動についての周知を行った。

【評価】

- ・スポーツ推進委員の派遣数は年々増加傾向にあり、今後も地域行事等にスポーツ推進委員を積極的に派遣し、市民がスポーツに親しむ機会を増やしていく。

[基本目標2]競技スポーツの推進

〈基本施策1〉競技力の向上

【取組状況】

- ・トップアスリート育成強化支援選手を延べ12人（令和3年度～令和7年度）認定し、支援し

<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none">・市内の小中高校生が東北大会規模以上の競技会に岩手県代表または東北地区代表として出場する際に支援した。・市体育協会が主催する著名なスポーツ関係者による講演会やスポーツセミナーなどの開催を支援した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・岩淵麗楽選手や菊地心和選手など、トップアスリート育成強化支援認定選手が国際大会で活躍しており、一定の成果を上げている。また、全国大会へ出場する児童生徒の数も増加傾向にあり、取組みの成果として捉えている。競技スポーツの推進については、市民のスポーツへの興味・関心を高め、スポーツ活動の推進につながることから、取組みを継続していく必要がある。 <p>〈基本施策2〉各種大会の開催・支援</p> <p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・一関国際ハーフマラソン大会、花泉マラソン大会「瀬古杯」の開催を支援した。・市体育協会と連携して、種目別競技協会が主催するスポーツ大会の開催を支援した。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・各種大会の開催は、市民の競技力向上に結び付くことから、更なる競技力向上のため、支援を継続していく必要がある。
<p>[基本目標3]スポーツ団体等の育成・支援</p>
<p>〈基本施策1〉市体育協会等スポーツ団体の支援</p> <p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・本市のスポーツ推進の中核的役割を担う市体育協会の事業及び運営に要する経費に対し補助し、生涯スポーツの推進及び競技力の向上に努めた。・市体育協会と連携し、種目別競技協会や地区体育協会を支援し、競技力の向上、選手強化、地域住民のスポーツ活動の推進に努めた。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・種目別競技協会会員の高齢化や新規会員の確保が難しいという声が多い。各競技の普及及び競技力向上に競技協会は重要な役割を担っているため、その組織強化のための支援や各種目の体験教室など各競技を広く知ってもらう取組みが必要である。 <p>〈基本施策2〉スポーツ少年団の活動支援</p> <p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・市体育協会と連携し、スポーツ少年団への運営や指導者資格取得更新に対して補助し、スポーツ少年団の活動を支援した。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・少子化により団員数は減少傾向にあるが、子どものスポーツ環境の維持のため、支援の継続が必要である。 <p>〈基本施策3〉総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援</p> <p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・新たな総合型地域スポーツクラブの設立はなかった。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・部活動の地域展開などで総合型地域スポーツクラブの役割が重要になることから、今後、連携を深めて市民のスポーツ活動機会の充実を図っていく必要がある。
<p>[基本目標4]スポーツ交流の推進</p>
<p>〈基本施策1〉スポーツツーリズムの推進</p> <p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・市外からも集客が見込めるスポーツイベントを開催した。

・市外の大学等のスポーツ部が市内で合宿する際の経費の一部を補助し、スポーツ合宿の促進を図った。

【評価】

・指標としている「合宿促進補助金の交付団体数」は令和6年度10団体で、目標値までは達しなかった。地域振興・地域活性化のため、引き続きスポーツを通じた交流人口の拡大を図っていく必要がある。

〈基本施策2〉スポーツ大会・イベントの誘致

【取組状況】

・令和4年度から市内で行われる東北規模以上のアマチュアの大会開催の経費の一部を補助する制度を創設することで、スポーツ大会の誘致を支援した。

【評価】

・指標としている「市内で開催される東北規模以上の競技大会及びトップリーグ等の競技大会の参加者数（観客数含む）」は令和6年度18,700人で、目標値に達しなかった。地域振興・地域活性化のため、引き続き各競技団体と連携し、スポーツを通じた交流人口拡大を図っていく必要がある。

〈基本施策3〉スポーツ合宿の誘致

【取組状況】

・いわてスポーツ Kommission が行う合宿相談会に参加し、大学等のスポーツ合宿の誘致に向けたPRを実施した。

【評価】 ※再掲

・指標としている「合宿促進補助金の交付団体数」は令和6年度10団体で、目標値までは達しなかった。地域振興・地域活性化のため、引き続きスポーツを通じた交流人口の拡大を図っていく必要がある。

[基本目標5]スポーツ施設の利用促進

〈基本施策1〉スポーツ施設や設備の整備・充実

【取組状況】

・安全で安心してスポーツ活動ができるよう、必要に応じ既存施設の整備・改修を行った。

【評価】

・令和6年度の1人あたりの市スポーツ施設利用回数は6回となっており、目標値を達成している。引き続き安全安心を最優先に計画的な改修を行っていく。

〈基本施策2〉利用者のニーズに応じた管理運営

【取組状況】

・公共予約システムを活用し、施設利用の利便性の向上、利用の促進などに努めた。

【評価】

・概ね利用者のニーズに応じた管理運営がなされており、今後も引き続き適切な管理運営に努めていく。

〈基本施策3〉スポーツ施設の効率的な利用促進

【取組状況】

・市及び市体育協会ホームページを活用して、スポーツ教室や各種大会の情報を掲載し、スポーツ情報発信に努めた。

【評価】

・概ね効率的な利用が図られており、今後も引き続き効率的な利用促進に努めていく。